

誰もが抱える悩みをパワッと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副部長
福田 貴一

前向きに学習に取り組み、成績を上げていくための前提となるのが、お子様自身の「やる気」です。その「やる気」を引き出すために一番大切なのが「ほめる」ことになりま。よくいわれることですが、やはり子どもは「ほめて伸ばす」のが基本だと考えています。その一方で、「ほめる」というのはなかなか難しいことでもあります。今回はお子様のやる気を引き出す「ほめ方」について考えます。

子どもを「ほめる」「評価する」

存在そのものを「肯定する」

お子様をほめる場合、私は具体的な行動や結果を「ほめる」よりも先に、まずお子様の存在そのものを「ほめて」あげることをお勧めしています。「これは「ほめる」というよりも「肯定する」というのが正しい表現かもしれません。

勉強になかなか前向きになれないお子様は、「どっせ自分はダメだから」と、自分自身を否定してしまふような感情を持っている場合があります。何か失敗して自信を失っていたり、うまくいかないことが続いて自己肯定感が持てなかつたりしているのです。

まずは、「やればできる」という気持ちを持つことがスタートです。そのためには、保護者様がお子様を全人格的に認め、肯定してあげる

ことが必要ではないでしょうか。「大丈夫！あなたはやればできるから」。保護者様のそんな一言で、お子様の気持ちは大きく変わるはずですよ。

逆に、お子様の全てを否定してしまうような言葉は避けなくてはなりません。例えば、「やっぱり、あなたはダメね」という言葉。「あなたはダメ」という言葉は、自分の全てが否定されたように感じるはずです。そこに、さらに「やっぱり」という言葉がつくことになって、お子様は「前から思っていたけれど、やっぱり……」と捉えてしまうので、気持ちは大きく傷付いてしまふでしょう。それが塾の先生から掛けられた言葉なのであれば、「自分を否定するような先生の授業はイヤだ！」とクラスを変えたり、塾そのものを変えたりすることができます。しかし、お父様やお母様の言葉だった場合はどうで

しょうか。お子様は悲しい顔を下を向くしかできなくなってしまう。何気なく口にしてしまった一言で、お子様を傷付けてしまうことのないよう、心にとめていただければと思います。

やる気を継続させる「ほめ方」

お子様が自己肯定感を持てるようになり、「やる気」も生まれ、ある程度勉強が軌道に乗ってきたら、今度はその「やる気」を継続できるように働き掛けることが必要になってきます。このタイミングで効果を生むのが、具体的な行動や結果を「ほめる」ことです。ところが、大人にとってはここがなかなか難しいポイントです。大人の目から見れば、小学生のお子様の行動にはまだまだ物足りないところが多いものです。家庭学習についても、「もっと集中できるはずな

のに」「もっと長い時間頑張ってほしい」……：そう思われることもあるでしょう。そんなときには、半年前、3か月前のお子様を思い出してみてください。きっと、お子様の成長に気が付くはずです。過去のお子様を評価の基準にすれば、行動の変化が明確になります。それこそが「ほめる」べきポイントです。万が一、過去と比較して悪くなっているところがあれば、その点を具体的に注意すればよいのです。

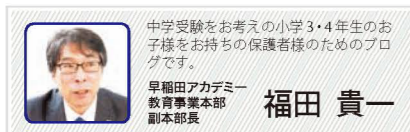
結果を「評価する」

テスト結果が返されたときに、得点や偏差値を見て「ほめる」「叱る」のは簡単です。前回よりもよい結果だったときや目標点(偏差値)に

到達したときは、手放してほめてあげてもよいでしょう。また、予想外に悪かった場合、お母様が悲しい顔を見せることもときには必要です。ただ、点数の良し悪しだけにこだわってほめたり叱ったりしていると、お子様が「点数さえ取れば何をしてもいい」と思ってしまう危険性も出てきます。また、お子様が納得できないような叱り方をされた場合、学習に対する前向きな気持ちは損なわれてしまふこともあり得ます。そうならないためにも、結果を正しく「評価」してあげるようにしてください。私は、結果に関して「ほめる」「叱る」よりも「評価する」ことの方が大切だと考えています。「計算問題と一行問題が全部正解だったのはよかったね」「記述問題で空欄を残してしまっただのは、よくなかったね」というような「評価」です。「今回は漢字練習をしっかりとやったので、満点が取れたね」という言葉のなかには「ほめる」「言葉は含まれていませんが、お子様は「頑張ったね」「よくできたね」以上にうれしく思っています。

「プラス」の感情を子どもに伝える

子どもを指導するときには、「怒る」「叱る」「注意する」「評価する」の四つの方法があります。私が塾でお子様を指導する際、基本的には「注意する」「評価する」という指導を行います。ときには「叱る」こともあります。塾において「怒る」というのは「感情的に叱る」ことだと考えていますので、絶対に避けるようにしています。



著書に『中学受験 身につくチカラ・問われるチカラ』(新星出版社)。ブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はWebをご確認ください。
早稲田アカデミー 検索



左の二次元コードを読み込んでご確認ください
スマートフォンの対応

福田 貴一
早稲田アカデミー
教育事業本部
副部長